

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ 1階		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	平成 28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成 28年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100768-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声と笑顔が溢れるホームを目指し、当たり前前の生活をおくって頂くよう、多少の制限があるものの飲酒や喫煙も支援し、出来る範囲で日常的に掃除や調理にも参加して頂いている。買い物についても近くのコンビニへ運動と気分転換を兼ねて徒歩にて一緒に出掛けるよう支援しており、スーパーにも車で買い物も行っている。町内の行事にも積極的に参加させて頂きホーム行事にも案内をして町内の方の参加も呼び掛けている。夏にはホーム前の畑と一緒に野菜をつくり、2階ベランダでも野菜や花を育てて水やりも入居者様にお願いしている。季節ごとの習わしも大切に考えて、お彼岸には「おはぎ」、雛祭りには「桜餅」、夏には「花火」や夏祭りでは職員が仮装すると共に準備は入居されている方と共に一同行い一緒につくりあげている。来訪者には笑顔で挨拶を心掛け、訪問しやすい環境づくりを目指している。普段から外出支援には取り組んでいるが、月によっては「外出強化月間」として遠方にも出かけられるよう取り組んでいる。当たり前前のことであるが入居者優先を念頭に日々職員は一丸となって取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに中学校、コンビニエンスストア、歯科クリニック、幼稚園があり、活気にあふれた生活利便性に恵まれた地にある。事業所独自の理念「明るく、楽しく、健康で、地域と共に」を掲示し、職員は精神的な安定を第一にケアの統一を図っている。日常的に地域の方との触れ合いを多く持つことを目標に掲げ、事業所行事、運営推進会議には地域住民が参加して運営に協力し、利用者は買物や散歩、盆踊り、今年度初めて町内作品展に参加するなど地域との交流が頻繁になっている。職員同士は話しやすく相談ごとや疑問など聞きやすい環境で張り合いをもち業務に就くことが出来ている。ホーム長、管理者、職員は常に介護の質の向上に努め、職員は資格取得を目指し頑張っている。利用者は肩を張らず健康に自然体でゆったり思い思いに過ごし、家族には写真入りで「くつろぎ通信」を毎月送付して、利用者の様子を知らせている。家族来訪時に重度化・終末期に向けた段階的な話し合いを行い、本人、家族の意向に寄り添い安心出来るよう取り組んでいる。家族・担当医師・職員が連携して、これまで5人の看取りを行った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内は明るく楽しく笑い声に溢れており健康面についても訪問看護師やかかりつけ医と連携を図り日々体調管理には努めていると思うが地域と共にについては決まった少人数の関わりとなってもう少し範囲を広げようしたい	事業所独自の理念「明るく、楽しく、健康で、地域と共に」を全職員で考えて作成し、玄関の見やすい所に掲示している。職員はオリエンテーション、フロア会議などの機会を捉えて理念を振り返り、介護の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており地域の行事に相互参加している。近くのコンビニは顔なじみとなり入居者と共に買い物にも出かけたりしているが、もう少し地域とのつきあい方の検討が必要ではないか	町内会の運動会、盆踊りなど積極的に参加している。近くの店に毎日牛乳を買いに行くなど顔馴染みになり、学童保育の子供達の訪問もあり癒しになっている。地域住民から古布や山菜、魚介を貰い、事業所の行事にも参加呼びかけ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で日常の入居者の状態とケア方法について伝えたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で町内会の人や包括支援センター、家族との話し合いをしていて意見等くみ取っている。	年6回、地域包括支援センター職員、町内会、家族などが参加して、運営状況の報告、看取りに関する事、職員の異動、地域の情報などで質疑応答が活発に行なわれ、意見や助言を得て運営に役立てている。	運営推進会議への参加を、地域住民、家族来訪時に幅広く呼びかけ、多くの意見、助言を運営に活かすことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは気軽に相談できるようになっており、今後は、管理者主任にも良好な関係を築くような様々な機会に対しホーム長以外に対応をゆだねようと考えている。	電話やメールを利用して市の担当者とは主にホーム長が対応し、介護度の更新時に書類的な物は持参して貰ったり、出向いて教えてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、外出や散歩等、本人の想いにさりげなく見守り付添をしている。言葉にしても相手に不快な思いを抱かせない様に皆注意している	研修、勉強会、フロア会議で普段から機会を捉えて学習し、其の時々実践を大事にして取り組んでいる。センサー、チャイムも家族の了解を得て役立てている。防犯上夜間のみ施錠している。言葉かけが、無意識の拘束にならないように職員間で注意合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	最近、原因不明の皮膚変色や表皮剥離等が多かったように感ずるが、速やかに原因究明に動いて予防策を講じたり、勉強会や研修、会議やその都度お互いに注意し合う等して気をつけている。		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員とは言えないが勉強する機会を設けているが活用機会が無いのが現状であった。今後必要とされる場合が出てくることが考えられるので研修をして入居者の安心生活を保持していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明させて頂き、不安があればいつでも相談に応じるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事ある毎に声をかけて意見や提案要望等を出しやすい関係づくりを目指して対応している。	毎日の会話から利用者の意見、要望の把握に努め、家族来訪時には入居者を交え最近の生活ぶりや病院の受診のこと、看取りのことを段階的に話し合っって情報を提供し意見を聞いて運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等や普段から意見提案をくみ取るようにしており、ホーム長や管理者から代表者に伝え理解を頂くようにしている。	常に話し易い雰囲気作りに努めて、ホーム長が気軽に職員に話しかけ「勤務のことやどんな風に指導したらよいか」などの質問や、意見を聞いたり、提案などを引きだして運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正職員への転換、条件の変更等ホーム長から代表者に伝えて整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は積極的に行い、内部研修もその時にあったテーマで2ヶ月に1回行っている。それ以外にも希望者がいれば、希望する勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長がグループホーム協会の役員をしている関係から「井戸端会議」という他グループホーム職員を交えての会を不定期に開いて情報交換と良好な関係づくりをしているが、もう少し交換研修等を多くしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の職員が入居者はもちろん、家族や知人等と積極的に関わりをもち話を聞き入居者の想いを汲み職員同士で情報を共有したりして良好な関係を作ったり保ったりしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは相談に来た時に良く話を聞き不安の軽減に努め、入居予定フロアの職員とも顔なじみになるよう対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か不必要かを見極める為に家族・本人・居宅のケアマネージャー、施設職員や医療関係者より情報収集に努めている。特に入居者本人や家族との関わりの中で見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として助言を頂いたり、料理や掃除、買い物、おしぼり干し、食事の後片付け等を精神的身体的に負担とならないように見守りしながらお願いをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話、季節の便り等推奨し、ご本人の状態を伝えて情報を共有し病院付添いや行事等の訪問、正月やお盆冠婚葬祭等の時の外出や外泊にも協力頂き共に支えていると思う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ出かけたり、兄弟宅訪問の支援をしたり、ご家族はもちろん従兄弟や義兄弟、知人等の訪問にも笑顔で対応し訪問しやすい環境にしていると思う。	入所前に住んでいた近くのラーメン店に行き、懐かしがられたり、事業所近くのコンビニの店員と挨拶を交わし顔馴染みになったり、行きつけの美容室に行ったりして、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに会話が理解出来ずにいる時には必ずスタッフが中に入り会話の橋渡しをしている。なにげない会話の時にも離れている入居者に向けて話題を振ったり同意や意見を求めて会話の中に入っているという想いをもってもらい孤立しないようにしている		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている人はお見舞いに行ったり、ご家族とも気軽に話しかけている。賀状のやりとり等している。釣った魚等届けてくれたり関係の家族もいる			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で希望や意向の把握に努めており、美容室や買い物、外出、外食、飲酒等支援している	日常のコミュニケーションで一人ひとりの声のトーンや体調に気を配り、日々を充実して過ごして貰えるよう寄り添って、聞いたことを出きる限り希望に沿えるよう記録し共有している。望む方には、健康と安全を確保しながら飲酒や喫煙もしてもらう。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートはいつでも見ることが出来るようになっている。ご家族来訪時にも聞き取りをしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時折「知らなかった」等の発言が聞かれたり、日々の業務に追われて把握のチャンスを逃していることは否定できないが個人日誌や連絡ノート、会議等で把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来訪時に聞き取りをしたり、スタッフ会議でのケア方法の検討、担当者会議での検討をしているが本人や家族の担当者会議への参加が出来ていないのが現状であり、今後の検討課題と思われる	利用者一人ひとりに担当制をとっている。介護計画作成者は普段から家族の意見、日々の関わりから情報を記録し、アセスメント、モニタリングを繰り返しながら精神的な安定を考慮して介護計画を作成し家族の確認を得ている。変化があれば即ぐ対応し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌の記載と連絡ノートや会議等で情報共有し活かすように努めているがまだまだ記載が少なかったり、必要な部分が抜けていたり、気づきや工夫が少ないと思う			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付添、美容室への外出や外食に出かけたり風呂上がりのビールや晩酌等支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室へ送って終了したら連絡をもらい迎えに行ったり、姉妹宅への送り迎え、本人の料理の材料購入の為に店へ付添ったりしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の病院受診継続や往診可能な協力医師を勧めたりしている。又状態変化があるときには受診先に手紙を書いたり、職員が付き添ったりと支援している	かかりつけ医は利用者、家族の意向に添って決めている。現在は本人家族の希望で大半は月2回の協力医師の往診となっている。通院付添は基本的に家族が行なう。医療連携を取り入れ訪問看護師の訪問もあり、話しやすく何でも相談でき安心に繋がっている。		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護来訪時に日常の状態を伝えると共に気になったことを尋ねたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り退院後の受け皿になることを伝えると共にお見舞い時等に情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・入居中・状態変化時に説明させて頂き、本人・家族・介護職員・医療と支援に取り組んでいる。今まで事例は無いが終末期の方の宗教に関する事柄にも柔軟な対応が可能であると思う。	契約時に利用者、家族に、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。家族来訪時に重度化、終末期に向けた段階的な話し合いを行なっている。其の時々柔軟に対処し、事業所で出来ること出来ないことを説明し本人家族の意向に寄り添い安心出来るよう取り組んでいる。これまで5人の看取りを行なった。全職員にホーム長がしっかり指導し、家族・担当医師・職員の連携であわてず支援することができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、研修等での学習及び緊急マニュアルを見やすいところに置いている。又、その都度勤務者に口頭で指示をしたりしている。又ホーム長はホームの近くに居住し24時間の連絡も可能である		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行ったり、机上でのシュミレーションをしたりしている。地域の方は協力して頂けると言われているが実際の避難訓練時の参加は少ない	年2回以上訓練を行い、1回は消防署指導の下避難誘導、2回目は通報、消火訓練、3回目は事業所独自で夜間想定し図面上でシュミレーションし訓練を行っている。有事に備えてスプリンクラー、昇降機、非常階段利用のシュミレーションを繰り返し行なっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大事なおお客様という想いを忘れずに十分気を付けているが時折排泄等の声掛けが大きくなっているお互いに注意しあいながら会議などでも課題として取り上げて対応に気を付けている。	何事も日々実践をモットーに、声掛け、声のトーンに気を配り、ホーム長は不適切な対応を見かけたときはその日のうちに何気ない雰囲気や注意している。プライバシーについても内部、外部研修で認識を深めている。外部研修は段階的に受講し、事業所に持ち帰り共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を選んで頂いたり、食べたいもの飲みたいものも選んで頂くようにしている、又、外出支援に際しても何処に行くか何を食うか何を食べに行くか尋ねて決めてもらっている。入浴についても本人の希望にそっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就床も本人に合わせて対応しており食事に際しても自室での希望があれば出来るだけ応じているが職員によって業務優先になりがちになるので常に入居者優先ということを伝えていっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	業務に追われた時や介助が集中してしまうと見逃してしまう時や入居者の状態によっては難しい面も多々あるが職員間の連携を図り支援している。		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理を作ったり、行事や季節の習わし等の料理も提供したり、卓上で出来る焼きそばやチャンチャン焼き、ジンギスカン、鍋等を提供している。	献立は職員が作成し、フロアごとに調理している。できることは職員と一緒に楽しみながら作り、近所から買った魚、山菜などを利用したり、イベント食のおはぎ、桜餅、餅つきなど季節感を味わっている。外食や時には利用者が望むカップラーメンも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望や状態によって量の調整をしたりこまめに飲み物を勧めたりしている。必要時には個人日誌に記録し情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが健康の為に重要なことだと認識はしているものの人によっては拒否強く出来ないことが多い人がいるのも現状である。例え毎回でなくても1日1回でも出来る時にケアを行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の動きで先手をうって案内したり、入居時には紙パンツ使用していた人を布パンツへと変更したり、個々人によってパッドを替えたりしている。常にケア方法の検討をしている。	表情や態度に気をつけながら、一人ひとりのサインを見逃さずさりげなく声かけをして、トイレでの自立排泄を支援している。入居以前はリハビリパンツにパッドであったがパッドだけに改善して日中は殆どが自立している。本人が安心と熟睡のため、夜間だけリハパンの使用をすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動の勧めや水分摂取量、食物繊維含有量の多い食材に心掛けたり、個々人に応じてカスピ海ヨーグルトや青汁牛乳等提供している。入浴時や排泄時等にも随時腹部マッサージも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるように準備をしており、多少の時間制限はあるものの午前・午後・夜間と入浴可能にしている	毎日入浴可能であるが週2回は設定している。拒否がある時は声掛けの時間・日を替えたり、夏は清拭を施している。入浴剤(ユズ)を楽しんでもらえるよう工夫し、楽しい入浴になるように支援している。入浴後はビールや晩酌を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の明るさにも気をつけ起床時間が早い人には就床を勧めたりしている。時には音楽をかけたりと個々人に合わせて対応を検討しながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しようと努力はしているが完璧ではないので薬についてのファイルをいつでも確認出来る箇所に置いてある。薬変更等あった時には連絡ノートに記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理作り、飲酒、季節の行事、外食、花見、買い物、等 支援している		

グループホーム くつろぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容室希望、買い物希望等の希望時には出来る限り希望にそっている。ドライブに行ったり夏には庭に出て日向ぼっこ等している。昔勤めていたバス会社にも行ったことがある。基本的に出かけられる時には何をあてても出かける事を優先している	日常の散歩やコンビニへの買い物、外出強化月間を設定して出来る限り季節のドライブや外食(回転寿司、ラーメン、恋問館、別保公園)に出かけて、ストレス解消や楽しみになるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが家族との了解のうえお金を所持しており、買い物時や病院受診時等自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機はフロア内においてあり希望された時には掛けられるように支援している。断られることが多いが、年賀状やお礼状等も勧めたりはしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Xmasや正月等雰囲気づくりの為に飾り物をしているが普段からもう少し季節感のある空間を目指したい。食事時にはテレビを消し、音楽を小さく流したりしている	玄関はスロープで出入りが優しく、居間は南向きで日当たりも良く、対面キッチンで食事準備の際には五感も味わえる。常に気の合うもの同士が寄り添い、職員と一緒にゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や畳の小上がりもある、トラブル防止の為に背中合わせにする等配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明しているが新しく購入する人が多い、入居者の動線や使い勝手等考えて一緒に模様替えをしたりしている。冷蔵庫や仏壇をおいている人もいる。	南西向きで明るく、直ぐ近くに中学校もあり学生の姿が見られ生活感がある。クローゼットが取り付けられ、使い慣れたタンスや大事にしているものを持ち込み、日々穏やかに居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などには目立つように札をかけている。夜間、特定の入居者がトイレが解らずにいる様子だったので常時点灯しておき扉も開放して自分で行けるようにした。		